

下関港 国際クルーズ拠点整備事業

事業評価に係るバックデータ

事業名	下関港 国際クルーズ拠点整備事業
-----	------------------

1. 事業概要

構成施設	岸壁(水深12m)、ふ頭用地、旅客上屋	
事業期間	平成31年度～平成34年度	
事業費	97億円	

2. 費用

	単純合計	基準年における 現在価値(C)
事業費	89.8億円	81.1億円
管理運営費等	45.6億円	15.5億円
合計	135.4億円	96.6億円

下関港 国際クルーズ拠点整備事業

	単年度便益	基準年における 現在価値(B)
①外航クルーズ船の入港による国際観光 純収入の増加便益	16.9億円	310.0億円
②残存価値	19.3億円	2.3億円
合計	—	312.3億円

4. 結果

費用便益比(B/C)	3.2
純現在価値(B-C)	216
経済的内部収益率(EIRR)	14.8%

5. 感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比
需要	クルーズ隻数:129隻	±10%	3.1～3.8
事業費	97億円	±10%	3.1～3.8
事業期間	4年	±10%	3.2～4.3

6. 費用便益分析の条件

分析対象期間	50年	社会的割引率	4%	基準年度	平成30年度
--------	-----	--------	----	------	--------

事業名	下関港 国際クルーズ拠点整備事業
-----	------------------

■事業費内訳

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
工事費				
岸壁(水深12m)	式	1	60	
本體工 他一式	m	380	60	
ふ頭用地	式	1	27	
舗装工	ha	3.9	27	
旅客上屋	式	1	10	
建築工	ha	0.5	10	
合計			97	

下関港 国際クルーズ拠点整備事業

■管理運営費等

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
管理運営費	式	1	29.3	
再投資費用	式	1	20.0	

※港湾管理者へのヒアリングにより算出している。

■概要図



便益計算

①国際観光純収入の増加

Without (整備なし)	既存施設(新港地区貨物船岸壁、東港地区)を利用
With (整備あり)	(新設)新港地区旅客船ターミナルを利用

○便益計算

項目	With	Without	備考
クルーズ船寄港隻数 (隻/年)	129	103	H35年におけるクルーズ需要およびWith時、Without時の受入能力を基に設定
1隻当たりの平均旅客数 (人/隻)	3,075	3,031	入港実績および今後の入港予定により設定
1人当たり観光消費額(円/人)	20,000		港湾整備事業の費用対効果分析マニュアルに基づき設定
国際観光純収入(億円/年)	79.35	62.44	隻数×1隻当たりの平均旅客数×1人当たり観光消費額×海外母港率
国際観光純収入の増加額(億円/年)	16.91		With－Without